

カルチャー・ショック 外国人のみた日本



Jose Cordeiro
出身地：ベネズエラ・カラカス
所属：自由経済知識普及研究所 (CEDICE)、
国連協会ミレニアムプロジェクト
日本滞在：2007年9月～2008年7月

ウナギとブリュワ

ホセ・コルデイロ

昨年一二月、アジ研の客員研究員は静岡県へのスタディ・ツアーに出かけた。このツアーには、アジ研のスタッフ二名の引率のもと、中国からの客員研究員二名、韓国から二名、インド、イラク、モンゴルからそれぞれ一名、そしてベネズエラから私が参加した。

新幹線に乗ること一時間半、私たちは日本最高峰の富士山を見ることができた。日本が世界に誇る技術の最高峰（新幹線）に乗りながら見上げる富士山は、格別の眺めであり、その日本の自然美は、忘れがたい思い出となった。私たちは昼食時に掛川市に到着し、天ぷらと、地元の名物であるウナギを食べた。

ウナギを食したのは私にとって初めての経験であったが、本当に美味で、私はウナギが大好きになった。それ以来私は静岡に滞在した三日間というものの、すべての食事でウナギを食べたのである。昼食にウナギを食べ、夕食でもまたウナギ。朝ご飯にもウナギを食べた。私は大いに「ウナギ天国」を満喫した。ウナギのアイスクリームまで食べたほどだ。ウナギアイスは少し変わった味ではあったけれど、それもまた美味であった。

私の国ベネズエラでは、肉（とくに鶏肉、

牛肉、豚肉）を多く食べるが、魚介類はあまり食べない。私は「フィッシュリアン」〔魚は食べるベジタリアン〕であるので、日本での食事を心から満喫している。そのような私にとってウナギは大いなる発見であった。私は寿司からアイスクリームにいたるまで、ウナギにはまってしまったのである。

初めてウナギを食べた昼食のあと、われわれ一行は、静岡県の海岸部で灯台などを散策したあと、中部電力の浜岡原子力発電所も訪ねた。

その夜、私たちは浜松の伝統的レストランでウナギやそのほかの地元の食事を楽しんだ。食事のあと私たちは市内を散策したが、その時私は街のあちらこちらでポルトガル語で書かれた看板をたくさん目にした。後日私は、浜松には現在二万人近い日系ブラジル人が住んでいること、彼らは日本政府が日系人に対する滞在ビザを緩和したのを受けて、工場などで働くためにブラジルから日本にやってきた人々であるということを知った。

次の朝、私は朝食にまたウナギを食べた。二日間にわたって私たちは、「音楽の町」浜松で、ホンダ、マルハチ、ヤマハなどの工場を見学した。すべての旅程が終わったあと若干時間があつたので、私たちは近く

の寺を訪ねた。小さな池に大きな鯉が泳ぎ、盆栽のような庭木やカラフルな庭石が置かれた美しい庭をもつ、手入れのゆきといた寺であった。庭のたたずまいは、龍潭寺という名前にぴったりであった。寺の近くで昼食をとったあと、私は近くのコンビニでウナギ・アイスクリームを見つけた。おいしかったけれど、一つ四〇〇円と、とても高価なアイスクリームだった。

この旅行以来、私はたくさんウナギを食べてきた。しかし残念ながらアジ研の食堂にウナギが出ることはない。アジ研では毎週月曜日のランチタイムに、英語で会話を楽しむグループがある。あるときメンバーの一人Yさんが、自宅で自ら料理したドジョウをその会にもってきた。Yさんが「ドジョウは小さなウナギみたいなもの」と言うので私たちは食べてみたけれど、残念なことに正直なところドジョウはウナギほどおいしくなかった（それともYさんの料理の腕のせい？「笑」）いずれにせよ、エコノミストはこう言います。「タダのランチほど高いものはない」

（海外客員研究員／訳 坂口安紀）